

## 千鳥ヶ淵における環境教育の現状及び可能性について

### 1 基本的な認識

都心部に位置する国民公園（皇居外苑、新宿御苑、京都御苑）は、その自然環境のみならず、多くの歴史的遺構や文化財を有していることから、これまでの生物多様性国家戦略で環境教育・環境学習の拠点として位置づけられている。

しかしながら、これまでの皇居外苑での環境教育プログラム提供は、「母と子の森」などの活用がある新宿御苑・京都御苑と比較すると、環境教育の場としての利用は一部の学校や団体が実施するにとどまり、多いとは言えない状況にある。

また、地元自治体である千代田区へのヒアリングでも、千鳥ヶ淵公園等でのサクラの保全に関するプログラムを除けば環境教育はあまり行われていなかった。

これに関しては、皇居外苑には環境教育の場として、潜在的な資源、ニーズはあるものの、これまで十分に活用されてこなかったものとする。

例えばこれまでも自然や歴史を探訪するガイドツアーなどの実績があり（事例1）、北の丸公園などでは、環境教育について検討の例もある（事例2）。

### 2 環境教育展開の可能性について

#### ○環境教育の対象となる資源

千鳥ヶ淵周辺で、今後環境教育を展開するにあたり、対象として考えられる資源としては、自然環境、歴史（史跡）、環境改善の取り組み、公園管理のあり方など、幅広いテーマが考えられる。

（環境教育のテーマとして考えられる例）

項目	内容例
歴史（史跡）	・江戸城史跡探訪（濠の成り立ちや石垣など） ・近衛師団時代の歴史探訪
環境改善の取り組み	・水質の現状と今後の改善方針 ・生物多様性の向上の取り組みと生き物数調べ
自然環境（都心にある自然）	・植物・昆虫観察 ・野鳥（陸域）観察 ・濠や池で水鳥観察
公園管理と景観	・現在のサクラをめぐる課題と行政の取組を紹介し、今後のサクラを含めた千鳥ヶ淵の景観を考える。（今後の管理のあり方の合意形成に向けて）

### ○利用者のニーズ

- ・ 平成19年度に実施された北の丸公園内及び園内施設での利用者アンケート調査（複数回答可）では、北の丸公園で今後期待するイベントの内容として、回答者の約4割が「江戸城跡の歴史探訪」と答え、続いて「皇居外苑の植物観察会」（約3割）と「野鳥（水鳥）観察会」（約2割）が続き、北の丸公園の歴史や自然の資源に触れるイベント開催を望む声は多かった。
- ・ また、近隣小学校などは北の丸公園や代官町通り小土手、外苑濠の緑地や水面を「都心の中における貴重な自然」と位置付け、自然観察などの環境教育・学習で利用している。
- ・ 以上のことから、千鳥ヶ淵及びその周辺における環境教育関連の利用者のニーズは存在しているといえることができる。

### ○利用のタイプ

- ・ 千鳥ヶ淵及び周辺地域の環境教育利用には下記のような利用のタイプが考えられる。

- ①千鳥ヶ淵に接した歩道（千鳥ヶ淵緑道・代官町通り・北の丸公園・靖国通り歩道）を利用（周回含む徒歩）
- ②ボートを利用した水面利用（3月～11月）

## ○多様な主体との連携の可能性

今後、皇居外苑、千鳥ヶ淵周辺を対象とした環境教育を検討するにあたり、連携が考えられる対象としては、千代田区、千代田区観光協会、地元の学校、科学技術館、丸の内さえずり館、ガイド団体、研究者などがある。

こうした団体の活動には、直接的に環境教育を全面に出していなくても、企画の中に環境教育的側面を含めている場合もある。

(今後連携が考えられる各主体(例))

### ■全体企画運営・コーディネイト

利用形態・分野	名称	概要
施設管理者・観光関連企画運営	財団法人国民公園協会「皇居探訪セミナー」	皇居東御苑、皇居前広場、北の丸公園、外苑濠等を対象に、ガイド・講師に依頼して史跡探訪や自然観察のセミナーを企画・運営。
	千代田区まちづくり推進部道路公園課	所管する公園内で、区の花さくら再生計画のさくら教室を開き、さくらサポーターといっしょの手入れ、緑道の清掃ボランティア等の活動を実施している。
	千代田区観光協会	さくら祭りの際には、LED照明を使い、サクラの枝を傷つけないようにするなど、環境に配慮した祭り運営に力を入れている。

### ■ガイドや自然観察、講習会等の担い手

利用形態・分野	名称	概要
日常型利用(ボランティアガイド)	江戸歴史散歩ボランティアガイド「江戸東京ガイドの会」	国内外からの観光客向けに千代田区内の史跡や観光スポットを案内するガイド。日本語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語に対応。
	東京シティガイドクラブ(財)東京観光財団	都内20コースの一つに「丸の内・大手町・皇居外苑コース」あり。東京シティガイド検定の実施機関。合格者は自主活動組織「東京シティガイドクラブ」に入会資格授与。
	ちよだ環境ボランティア「さくら美守り隊」	さくらまつりの期間中、緑道の景観保全、さくら保護のための千鳥ヶ淵緑道花見客へのゴミ持帰、宴会禁止、禁煙など「お花見マナー」を緑道清掃しながら直接口頭で注意。
日常型利用(自然観察・史跡案内)	丸の内さえずり館	財団法人日本野鳥の会と三菱地所(株)が共同で企画。現在は三菱地所のCSR活動の一環として運営され、皇居や皇居外苑など対象とした自然観察会等を企画実施。
	科学技術館「サイエンス友の会」	小学校3年生以上を対象として、「科学する心」を育てる活動。4月から1年間にわたって様々なプログラムを実施。その一環として、植物、動物の各専門家を講師に招いた北の丸公園での自然観察会を実施。
日常型利用(学校教育)	千代田区内学校	複数の学校が、それぞれのカリキュラムの一環として、校外学習、体育、環境学習(自然観察会)などで定期的に利用。
研究フィールドとしての関わり(研究者、NPO)	NPO東京セントラルパーク(景観研究)	江戸開府400年、日比谷公園開設100年を契機に、平成15年10月に市民のために日比谷公園、国会前庭、内濠、皇居前広場、皇居東御苑、北の丸公園、千鳥ヶ淵公園、千鳥ヶ淵戦没者墓地等の公園・緑地の横断的連携、首都東京にふさわしい中央公園としていくための活動実施。
	千代田区立四番町歴史民俗資料館	江戸遺跡の発掘調査や生活用具を収集し、それらの資料を保存公開しており、文化財保護に関する講演会等各種催しを開催。
	公益財団法人 東京都公園協会	日比谷公園の市民カレッジや都立公園で環境問題から暮らしの中の緑まで様々な、座学、野外学含め「緑と水の市民カレッジ講座」を開催。

## 北の丸公園における環境教育活動の検討について

環境省皇居外苑管理事務所北の丸分室

### 1 経緯

北の丸公園は旧近衛師団兵舎跡地に森林公園として整備されたものであり、昭和 44 年の開園後 40 年が経過し武蔵野の里山を思わせる公園となりつつある。このような中、現在では皇居東御苑とあわせ自然観察・花木鑑賞等のツアーに利用されているほか近隣小学校を中心に低学年を対象とした「自然とのふれあい」のための授業など、散策以外の環境教育的な利用が見られるようになっている。

このような状況を踏まえ、公園の特色を活かした管理を検討するために、平成 21～21 年度に「北の丸公園自然資源等基礎調査」を行い、環境教育等に資する資源の把握や活用方法の検討を行った。

### 2 北の丸公園の特色と環境教育の対象となる資源

- 旧江戸城北の丸、旧近衛師団兵営地を経て今日の公園となった歴史の変遷があり、各時代の痕跡が複層に折り重なっている。桜田門、清水門、旧近衛師団本部などの文化財が域内に所在。
- 都心部の公園としては、生物相が多様で、キンランなどの希少な植物も生育。外来種が優占する場所は少ない。江戸時代からの生物相が温存されている場所も存在。
- 苑内で発生した落葉の活用、太陽光発電などの環境にやさしい施設の整備、苑内の池への人工浮島の設置による生物の生息場所の確保なども実施。
- アンケート調査等からも「北の丸公園の歴史と自然を紹介してほしい」といった要望が多い。

別添「北の丸公園の歴史と自然」参照

### 3 情報の積極的提供とさらなる利活用の促進の方向

(利活用の方向性)

- ・ 都心の中での自然の美しさや豊かさ、快適な環境を感じる憩いの場として活用。
- ・ 多様な自然的資源や歴史的資源をきっかけとして環境について考え、理解力を育成する環境学習の場として活用。

- ・ 学校の授業や科学技術等の解説等を補完し、自然や環境、野外活動の体験フィールドとして活用。

この検討では、上記の利活用を実現するための地区毎の管理方針や施設整備やソフトについて方向性を提案し、その中で、情報発信や環境教育の例を提案している。

別添 「北の丸公園自然資源等基礎調査で提案されている取組例」を参照

現在、これらの検討結果を受け、「使い勝手のいい情報」はなにか、また、「使い勝手のいい提供の仕方」はないかを模索しており、とりあえず試行的に小学校低学年の担任教師や自然観察会のメンバー、ボランティアガイドの方々を対象にガイドツアーを実施したところ。

## 北の丸公園自然資源等基礎調査で提案されている取組例

利用者別の利用特性と提供メニュー例（既存の利用者）

利用者層	利用特性	提供メニュー例
武道館、科学技術館、近代美術館、工芸館、公文書館利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的とする施設見学のみがほとんど。</li> <li>・ 園内は、昼食の場等として利用。</li> <li>・ 武道館イベント入場者の多くは、開場前に休憩所を利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園内案内、案内誘導情報</li> <li>・ 休憩所利用時の自然情報やその解説、企画展示</li> <li>・ 歴史資源情報、解説</li> </ul>
幼稚園・学校等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節ごとの遠足やマラソン等で利用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な自然観察情報</li> <li>・ モデルルート等</li> </ul>
近隣住民・学生等の日常的利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 散策、ジョギング、休憩の場として日常的に利用。</li> <li>・ 散策やジョギングは、千鳥ヶ淵側等にも回遊して利用。</li> <li>・ 周辺のビジネスマン等が昼食時などに園路沿いベンチ等で休息など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用時の自然情報（気象情報、開花情報等）、解説</li> <li>・ 歴史資源情報、解説</li> </ul>
通過利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 九段下方面～竹橋、大手町方面間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用時の自然情報（気象情報）</li> </ul>

提供方法	方法案と内容例
①パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北の丸休憩所、管理事務所、科学技術館、ほかで配布</li> <li>・ 既存パンフレットの改良や新規作成 (公園の環境区分図や主な動植物の生物暦、モデルコース等)</li> </ul>
②ニュースレター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的なニュースレター等 (主として、幼稚園・学校や公園利用団体等への見頃情報等)</li> </ul>
③ウェブサイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存ウェブサイトの拡充によるトピックス等の情報発信</li> <li>・ データベースの公開</li> </ul>

利用者別の利用特性と提供メニュー例（自然観察等利用者）

利用者層	利用特性	提供メニュー例
幼稚園・学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節ごとに自然観察等で利用（生活科、総合的学習等で年1回～数回）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時の自然情報・解説（ガイド等による観察ポイントとその解説等）</li> <li>・定期的な自然観察情報（HPやニュースレター等） ※校内や父兄への配布等も。</li> <li>・モデルルート等 ※観察マナーも周知。</li> </ul>
科学技術館等による自然観察会企画・参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術館サイエンス友の会が自然観察会で利用。（専任講師3名、小学生親子）</li> <li>・国民公園協会が企画する探訪ツアーで利用。（専任講師1名）</li> <li>・その他の自然観察会等は把握していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内の自然情報等（パンフレットや掲示等による季節の情報提供、関連する取組情報等をインフォメーション施設で提供）</li> <li>・定期的な自然観察情報、歴史資源情報</li> <li>・モデルルート等</li> </ul>

利用者別の利用特性と提供メニュー例（その他利用者）

利用者層	利用特性	提供メニュー例
皇居周辺利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内には立ち入らず、千鳥ヶ淵緑道や皇居周辺の道路等から遠望し、景観を楽しむ。</li> <li>・皇居周辺のジョギング愛好者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然情報、歴史情報、解説</li> <li>・皇居周辺案内情報（案内板）</li> </ul>
一般（現地利用者以外）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイトや既存ガイド等により公園情報や関連情報を収集。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園案内情報</li> <li>・自然情報、歴史情報、解説</li> <li>・リアルタイム情報（気象データ、ライブ映像、等）</li> <li>・観察・探勝コース案内</li> </ul>

## 【ガイドツアーテーマ案】

以下に、今後実施が考えられるガイドツアーの案を整理した。また、下記以外にも今後有識者を交えて北の丸の新しい魅力の発見を進める必要がある。

### (1) 北の丸公園の自然環境

- ・ 拾って遊ぶ →どんぐり、その他木の実、落葉、枯れ枝 など
- ・ 捕まえて遊ぶ →バッタ、アリ、ダンゴムシ、オタマジャクシ など
- ・ 色や形で遊ぶ →落葉、枯れ枝、どんぐり など
- ・ 音で遊ぶ →草笛、鳴く虫 など
- ・ 転がって遊ぶ →落葉、草地 など
- ・ 葉や花、実で遊ぶ →クローバー、松葉、ササ など
- ・ 植物同士の関係 →常緑樹の森、落葉樹の森
- ・ 植物と動物の関係 →花と動物、実や種と動物、植物の一生と動物
- ・ 植物ときのこの関係 →きのこの栄養法
- ・ 植物の形と生態との関係 →実や種の形、色、味、樹皮の形
- ・ 動物の形態や行動と生態との関係 →嘴の形、身を守る工夫
- ・ 気候と動植物の関係 →温暖化、ヒートアイランド、越冬
- ・ 土壌との関係 →土と根、腐葉土、土壌動物
- ・ 水との関係 →水質との関係、水深との関係、流水、止水との関係
- ・ ネイチャーゲーム、プロジェクトワイルド等、自然学習手法の活用。

### (2) 北の丸公園の歴史

- ・ 江戸城の土木技術
- ・ 自然環境と江戸城の開発

### (3) 科学技術と自然との関係

- ・ 科学技術館における展示内容との連携

### (4) 北の丸とその周辺の地域環境学

- ・ 北の丸と周辺一体の近代の開発史、まちづくりの歴史
- ・ 丸の内地区等の発展と、地域環境の変化

### (5) 「観光」という視点から見た新しい魅力の発見

- ・ 資源とルートの開発
- ・ 障害者、高齢者、多様な方々が満足できるサービス

## 皇居外苑探訪セミナーについて

(財) 国民公園協会皇居外苑

国民公園の皇居外苑、北の丸公園及び皇居東御苑は、皇居を中心に広がる都心の貴重な緑地空間であるとともに、江戸城史跡、城門など歴史遺構、文化財などが点在しています。国民公園協会皇居外苑では、この地域のこうした自然や貴重な資源を探訪対象とし、樹木や花の説明、歴史エピソード等、講師の解説により、様々なテーマで探訪するセミナーを、2007年から15回実施しています。2月には、この地域に飛来した渡り鳥等にスポットを当てバードウォッチングを行いました。

今後、この地域の貴重な資源を、様々な視点、テーマにより、いろいろなコースで探訪し、この地域の歴史、自然、文化を、見て、体感し、新しい発見により学び、皇居外苑地域の資源の適切な保全と活用について考える、都心におけるエコツーリズムを目指し回を重ねて行きたいと考えています。



馬場先で満開の桜(イチヨウ)の名前の由来を



巽櫓の前で



桜田門外の変の桜田門で



北の丸公園で満開のハナズオウの説明を

(最近の実施例)

### 第15回皇居探訪セミナー「バードウォッチング」(2011年2月19日)

史跡を巡り歴史や公園の植物を探訪して来たセミナーの番外編、バードウォッチングをベテランバードウォッチャーの協力を得て開催致しました。皇居地区はお濠に囲まれ、また多くの木々にも恵まれているため鳥達の宝庫です。天候や観察時間等の関係で鳥達にうまく出会えるかは時の運。小雨の降りそうな寒い曇天の下でのバードウォッチングとなりましたが思いの外多くの鳥達に出会う事ができました。出発の北の丸公園から千鳥ヶ淵にかけては「ツグミ」「ヒドリガモ」「カイツブリ」「ヒヨドリ」「ムクドリ」「ヤマバト」「キジ」など、半蔵門では遥かに「カワセミ」を高倍率望遠鏡で観賞、広い桜田濠では「カワウ」「カワラヒバ」「キンクロハジロ」「カルガモ」「コガモ」「ヨシガモのペア」などを観賞、「オオバン」が水面から上がって堤塘を登る姿を目の前で見ることができました。ぜひ対面したかった「ミコアイサ」には最後の馬場先濠で出会う事が出来ました。雄5羽が滑るように優雅に水面を移動する姿にはつい見とれてしまいました。



北の丸公園からスタート



観賞に併せ写真でも説明をいただきました



オオバンを目の前で



ミコアイサ(手前はキンクロハジロ)

## 千鳥ヶ淵利用、環境教育に関する論点について

### 1 利用

#### ①現状と可能性の把握

○千鳥ヶ淵における利用の現状と課題、ニーズ、利用資源について把握を行い、問題点と今後の利用展開の可能性について検討を行う。

○現在の千鳥ヶ淵の利用は、散策、ボート利用に限られているが、象徴性や歴史性を損ねない範囲であっても、新たな利用動線や利用形態の可能性は考え得るのではないか。

例) 水辺とのふれあい

千鳥ヶ淵を周回する歩道の活用

○環境教育、自然とのふれあい、環境改善の取組と組み合わせた利用などの新たな利用形態の可能性がある。(北の丸で検討事例)

○サクラの時期への過度の集中を緩和し、四季折々に訪れたい魅力づくりの必要性。(千鳥ヶ淵緑道で先行事例)

○千鳥ヶ淵単独ではなく、周辺の公園、利用施設等との連携した利用を想定した取組の必要性。

### 2 環境教育・情報提供

○国民公園は、環境教育・環境学習の拠点としての位置づけがあるが、皇居外苑においては具体的な取組は少ない状況。

○水質、自然環境の改善後は、都心の貴重な水辺として環境教育資源となる可能性。

○環境改善の取組自体の資源としての活用可能性

○千鳥ヶ淵は北の丸公園など周辺と一帯として、良好な環境教育のフィールドとなる可能性